

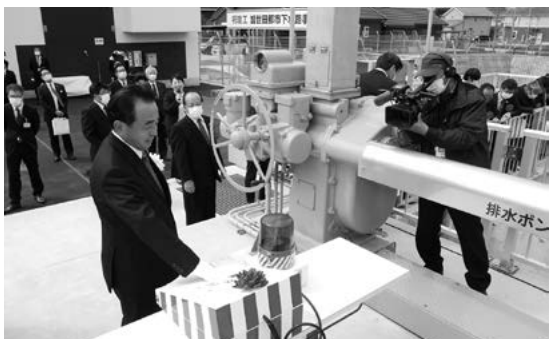
南さつま市加世田都市下水路事業が完工

石垣 フラッドバスターを2基整備

永田ポンプ場のポンプゲートで



気水混合排水運転状態でも運転音は静か



起動スイッチを押す本坊市長

石垣の全速水水位型横軸水中ポンプ「フラッドバスター」が南さつま市永田ポンプ場のポンプゲート設備として採用され、昨年度末に場内整備が完了した。これにより、先に供用開始した他の3機場とともに約9年間、着々と整備が進められた同市の浸水対策事業「加世田都市下水路事業」が完工し、3月19日には市内4機場で唯一、フラッドバスターは石垣と日本下水道事業団

調整池も整備し浸水対策万全に



（JIS）による共同研究で開発された製品で、JISが受託建設事業に新技術を積極的に導入するため運用する「新技術導入制度」において、ポンプでは初めて新技術工類に選定されている。永田ポンプ場水処理設備工事として初めて採用された。シンプルなシステムで故障に強く、高い信頼性を確保した点が大きな特徴。ポンプ運転水位の幅が狭いことで運転・停止を繰り返す「チャタリング」を抑制するためのインバーターによる電気制

御は不要で、全速運転のまま全量排水、気水混合排水、排水待機の各運転状態にスムーズに切り替わる。

振動や騒音もなく、排水待機運転時の消費電力をモーター定格の約30%まで抑えることで、省エネ性能を実現した。

また、ポンプ口径に対して約80%の低水位から排水を開始し、水路内の水位を低く抑える形で急激な雨水の流入に備えることができる。

ゲートに設置されたフラッドバスターは2基

で、それぞれ口径1000mm、吐出量2・3立方分/秒、全揚程3・1m、出力132kW。ポンプゲートの上流側には調整池（容量5200立方m）も築造された。

JISの中口和彦・鹿児島事務所長は「フラッドバスターはより安全かつ

確実に排水できる製品と評価している。加世田都市下水路事業の手伝いができて光栄に思う」とコメントしている。

なお、南さつま市は平成20年度に公共下水道（雨水・汚水）計画を策

定した。22年度に雨水対策を先行する方針転換を行い、24年度から都市下水路事業に着手。全体面積196ha、事業期間は昨年度末までの9カ年、全体事業費25億260万円をかけ、市内4カ所にポンプ場および調整池を整備した。

令和元年6月30日から7月4日にかけて発生した梅雨前線豪雨では、7月3日の1日降雨量が観測史上1位となる354mmを記録。整備済みの3ポンプ場を稼動するとも

に、工事中の永田ポンプ場については、県立薩南病院建設予定地の地下貯留施設を調整池として利用し、仮設ポンプで排水し浸水被害を防いだ。